

あ と が き

阿波学会紀要は本号で第58号を数え、通常論文18編と特別寄稿5編を掲載することができた。特記すべき事項のひとつとして、本号の特別寄稿には、極限環境に生息する微生物の調査報告を新たに加えることができた。分野の異なる複数の調査班が連携することによって総合学術調査にふさわしい新たな調査領域が加わったことを歓迎したい。

紀要編集委員会は例年どおり、年度内に4回開催した。例年の事ながら、年度末の多忙な中での委員各位ならびに事務局の多大な貢献により本号の完成を迎えることができた。とくに、本号の編集に関わる委員会での実質的なとりまとめ作業は、CD版の編集も含めて川添副委員長のご尽力によること大であった。また口絵の編纂は、小川委員をはじめとするワーキンググループが今回も工夫されたこと、さらに、特別寄稿の手書き原稿については、中崎事務局長がワープロ入力の手を執られたことを記しておきたい。

将来構想アンケートでも明確なように、紀要による総合学術調査報告は、多くの成果に裏付けられた、有意義かつ不可欠なものであり、それを支えるのは、今後とも会員諸氏の熱意あふれる執筆であり、編集委員会と事務局であろう。このような関係各位の自負と認識が、本号までの出版の原動力となってきたことは、間違いなさそうである。

既にご存じのように、紀要報告成果の裏付けとなる基礎データの収集は、単に当該年度の総合学術調査期間に留まらず、背景には、参加学会や班員の不断の課題探求によること大である。阿波学会の地域貢献は、学術団体の調査成果と事務局を担う図書館との協働の上に成り立っていることを読者の皆様にはこの場を借りてご披露したい。引き続き、関係機関・団体ならびに会員諸氏の連携と協力をお願いする次第です。

最後になりましたが、紀要58号発行に支援いただいた関係各位には、紙面をお借りして厚く御礼申し上げますと共に、益々のご発展をお祈りします。(石田 啓祐)

阿波学会紀要編集委員会

委員長 石田 啓祐

副委員長 中野 真弘 川添 和義

委員 岡山真知子 小川 誠 喜多 順三 近藤 孝造 仙波 光明 高橋 晋一
根津 寿夫 羽山 久男 堀江 秀茂 萬宮千鶴子 山本 裕史 和田 賢次